

令和6年度 開新高等学校評価表

1、教育方針
「来て良かった、やって良かった、勤めて良かった、あって良かった」開新高校

2、本年度の教育重点目標
○ 魅力ある学校づくり ○ 生徒募集・進路対策強化 ○ 健全な心身の育成 ○ 保護者との連携 ○ 地域連携と自意識向上の取組

評価項目		評価の観点 重点目標	課題と評価	今後の改善点
大項目	小項目			
学校経営	学力の充実・わかりやすい授業	・基礎学力充実の意識を高め、毎朝の自学自習や分かりやすい授業を通じて、学力の充実を図る ・生徒の個性・特性に応じた指導に努める ・生徒の様々な希望進路に対応できる技能・ポートフォリオの充実	授業時数の関係もあると思うが、振り返り授業はあまりできていないと感じている教職員が約半数を占めている。また、授業の理解度に関しては約7割の子どもたちがよく理解できていると答えている。ただし、分からないところを積極的に質問に行けていないようで、理解できていないころはそのままにしているのが現状である。	授業時間には限りがあるので、振り返りには朝学習の時間などすき間時間の効率的な運用をして行くべきである。 そのためにも来年度から導入予定のスタディーサブリの効果的な活用を進めていく必要がある。
	ICTを活用した教育の研究・実践	・タブレットを使用した授業方法の習熟・研究 ・ICT機器等を用いた授業方法や教材の研究・蓄積	教職員はICT機器の活用があまりできていないと感じている反面、子どもたちは授業でもよく活用されていると感じている割合が多かった。また、保護は子どもたちがタブレットを学校には持参しているが、家庭学習ではかつていないと感じている。 このことから、一部の決まった教職員がICT機器をよく活用しており、それ以外の職員はほとんど活用できていないといった温度差があることが分かった。	教科によってICT機器の使いやすさなどが違うのかもしれないが、よく使用している職員からのアイデアなど披露する場面があればよい。
	時代の流れに即した学校改革	・社会人としてとして必要な知識・責任・モラル等を1年時から段階的にに着けさせる ・本校で学ぶ意義、生徒一人一人に将来の目標を考えさせることによって、安易な退学や進路変更を思いとどまらせ、退学者の減少に繋げていく ・時代の変化に対応した校則の研究 ・ICT機器等を用いた職員の事務作業の負担軽減	挨拶や言葉遣いについて、教職員は指導もよくできているとかんじており、子どもたちも保護者もきちんとできていると感じている。 服装や頭髮に関して、職員の多くは議論する場があったと認識しており、子どもたちも姑息の意義などについては理解しているようである。ただ、保護者の多くは時代の流れに応じて構想は変化していくべきであると考えている。	校則の見直しについては、保護者や子どもたちの意見も聞きつつ時代に即さないものは改善して行くべき時期に来ているのかもしれない。
	進路指導の徹底	・多種多様な職業科を有する県内唯一の私立高校として、その特性を生かして生徒の希望する進路の実現に努める ・企業見学や外部講師による講演を積極的に行う等、キャリア教育の充実に努め、生徒が早い段階で自らの進路目標を見つける事ができるようにする	約7割の教職員が資格取得の奨励を含め、子どもたちの進路につながる指導ができていると感じており、約7割の保護者が子どもたちが将来の自分の姿をイメージできていると考えている。しかし、子どもたちの5割弱しか社会に出た自分の姿がイメージできていないといったギャップが見られた。	子どもたちとの意識のギャップが気になる。そこを埋めていくために進路講話やガイダンスが行われた後の面談やアンケートなど子どもたちの声を職員間で共有する必要があるのかもしれない。
学力向上	指導力の向上	・教員が自らの資質向上を図り、わかりやすい授業づくりを行うための教材研究や自己研鑽に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導を心掛ける。 ・ICT教育の充実を図り、魅力的授業を展開し、知識・技能の向上に努める。	・ICTを使い生徒達にとって分かりやすい授業を展開されていた。 ・他の先生方の授業参観することで、プラスになることが多かった。	・教材研究の時間を確保し、1時間1時間の授業を充実したものにする。 ・教師自身が新しいICTツールを使いこなせるよう、定期的な研修を行う。 ・ICTを活用した効果的な授業設計を学び、実践する機会を増やす。
	基礎学力の定着	・朝学習や宿題などを活用し、基礎学力の定着を図るように日々指導する。 ・家庭学習の習慣を身につけるように促す。 ・必要に応じて個別の学習指導や添削を行う。	・短い時間の中で熱心に取り組んでいるクラスが多く、有効に時間を活用されていることが本心に素晴らしい。 ・3年生を中心に放課後の時間を使い個別指導をされ、生徒の力が確実に進歩していた。	・新年度よりスタディサブリが導入されるので、学習の仕方も変化することが考えるが、意欲ある生徒にとってはプラスになるものであるので、教師側の働きかけも変化する必要がある。 ・教師側から声をかけて、個別学習する生徒の数を増やしていくことが望まれる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・心を込めて挨拶のできる生徒を育成する。教師から先ず挨拶を行う ・校内外のルールを守り、服装・頭髮に気を配り、自分らしさを表現できる生徒の育成	挨拶に関して、部活動生は積極的に挨拶ができているが、全校生徒にはまだ浸透していないように感じる。服装、頭髮は全職員で足並みをそろえて、指導していくことが大事である。	改善点としては、職員からも生徒に対して積極的に挨拶、服装の指導も取り組むことが大事だと思う。
	命を尊び、心身共に健康な人材の育成	・交通ルールの遵守、交通モラルの確立を図る ・他者を理解し思いやる心を育てるとともに、自分を高め充実した校内生活を送らせる ・生徒指導について、生徒の人権に配慮し、生徒の内面と向かい合いながら自分を見つめなおす機会を持たせる ・自己管理能力の育成（情報モラルの高揚、貴重品等の管理）	交通ルール、マナー等に関しは、より一層、生徒に意識させ、命の大事さを伝えていく必要がある。	日頃から、生徒に対して人を思う心、また、交通ルール・モラルなどの話をしていく必要があると思う。
	自主的に行動できる意欲ある生徒の育成	・朝の清掃活動及び校内の美化に積極的に取り組み、施設・設備を大切に扱う心を育てる ・地域の清掃活動等を通して奉仕の心を育てる	清掃活動に関しては、担任の先生方を中心に指導をしていたが、感謝している。ただ、トイレの破損、レストランの破損などが目立ち、心の成長が欠けているように感じる時があった。物を大切にすることを育てて行きたいと思う。	クラブ生は清掃活動などのボランティアは行っているが、全生徒に浸透させていくことが大事だと思う。
進路指導	進路に関する意識の向上	・LHRや総合的な探求の時間の活用および進路講話や各種セミナー等、年度末の校内進路ガイダンスに繋がる計画的な取り組みを行う	学年団と連携した取り組みが、さらに必要であると思う	クラスや学年単位での統一した指導も充実していく
	進路情報の提供	・学年団と進路指導部の連携を深め、生徒情報の共有およびClassroom『進路のお部屋』等の活用による進路情報の共有、生徒・保護者向けにはクロムブックを活用しリアルタイムの進路情報を提供する		